

令和5年度 学校評価報告書

学校番号(小12) 長崎市立(愛宕小)学校

1 教育目標

あたたかく たくましい 心と体をもち、互いに学び合う児童の育成
 ～ よく学び よく遊び ～

2 学校経営方針

日本国憲法や教育基本法をはじめとする関係法規、本県、市の教育方針に則り、教育者としての自覚とその使命感に徹し、自らの識見を高め、深い教育愛と相互の信頼協力によって創意ある教育活動を推進し、愛宕小学校の校風樹立を目指すとともに、未来につなぐ生きる力を身につけた「あた互の子」の育成に努める。

3 重点目標

- 〈 確かな学力（知）〉 授業の充実と確かな学力の定着（個別最適な学び）
- 〈 豊かな心（徳）〉 心の教育の推進と生徒指導の充実（生活習慣の確立）
- 〈 健やかな体（体）〉 体力の向上と健康安全教育の推進
- 〈 信頼される学校〉 信頼と協働による開かれた学校づくり

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児童	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	92	90	93	○教育目標・学校の雰囲気は概ね良好である。 ○組織運営・業務の改善としては、1学期からの改善が難しかった背景がある。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	92	91	100	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			74	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			63	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	89	87	79	○全体的に高い評価を得ていると言えるが、ほとんどの評価において昨年度より低い数値となっているので、行事や取組について広報をしていきたい。 ○特に挨拶は重点的に指導している一つでもあり、気持ちのよい挨拶を心がけていけるよう指導していきたい。 ○「あはは運動」に対しての保護者の理解がかなり低下しており、再度啓発活動が必要であることがわかった。
		挨拶をよくしている	87	78	89	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	80	63	73	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	92	87	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	97	84	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	97	89	95	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	78	80	94	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	91	85	95	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	58	88	89	○総合などで、地域の実態に即した教育やキャリア教育を実施しているが、児童及び保護者に認知されていない面もあり、情報提供が必要である。 ○校内研などで授業改善などを図り、効果が上がっている。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	92	89	93	
		家庭学習の習慣が身に付いている	91	74	95	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	73	63	84	
長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである		94				

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	93	89	95	○朝の「走れ走れ運動」やフィットネスチャレンジなどの取組を行い、体力向上を図ってきた。 ○「早寝・早起き・朝ごはん」については、やや低くなっており、「あはは運動」の啓発とともに家庭に呼びかけていきたい。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	79	79	95	
		体力向上に努めている	84	84	100	
	食育	食に関する教育活動を行っている	81	85	89	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	93	90	100	○期待以上に、高い評価を得ており、様々な取組などに対して理解を得ていると考えられる。 ○PTAや地域との活動も少しずつ復活させているので、より良い活動としていきたい。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	81	84	95	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	85	84	100	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			95	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	92	84	95	○学校の老朽化などに伴い難しい面も見られているが、一層の環境整備に努めていきたい。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			79	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

○今年度本校においては、人手不足を職員の努力によって大きく補ってきた。そのため、働き方改革などに関しては、後回しになってしまった背景がある。非常に厳しい時期もあったが、児童の教育に影響を及ぼしてはいけないという強い信念のもと全職員で学校教育活動に当たってきた。それを受けての高い評価であると感じている。
○アフターコロナといえる時期になり、保護者や地域との関りを大切にした教育活動を再編成し、大人総がかりで児童の健全育成に努めていく体制づくりを進めていきたい。
○特に学力向上・体力向上については、様々な取組を積極的に行ってきた成果が見られていると言える。

6 学校関係者評価

○1学期の厳しい状況乗り越え、子供たちが伸び伸び活動し、学力向上・体力向上を積極的に行い、成果をあげていることは大変素晴らしい。職員の努力、また、管理職のリーダーシップも素晴らしかったのだろう。
○特色ある教育・平和教育・キャリア教育は、子供たち、及び保護者にも伝わりにくい部分がある。質問の文言も考えていくと良いのではないかと。また、児童の評価で「特色ある教育」は低くなっているが、「長崎の町や自分の住んでいる地域は好き。」と回答している児童は高い割合になっており、効果は上がっていると考えられる。
○様々な社会の変化等もある中、「走れ走れ運動」を長く継続しているのは、本当に素晴らしい。
○子供の挨拶はよくなっている。普段から気持ちのよい挨拶をしてくれる児童もいる。学校に来たときは、ほとんどの児童が挨拶をしてくれる。校外では、難しい面もあるが、大人が挨拶をしていくことが大切である。
○「あはは運動」については、今年度低くなった理由はよくわからないが、様々な場で啓発していきたい。
○メディアについては、難しい問題。子供とともに家庭への啓発が大切。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

○通知表・日課の見直しを行い、職員の負担を少なくすることで「働き方改革」を推進していくとともに子供に向き合う時間を確保していく。子供に寄り添った指導や質の高い学習の実施を図っていく。
○「あはは運動」をはじめとする教育活動について、tetoruなどを利用して、様々な機会に発信していくこととともに関連機関と協力しながら啓発活動を進めていく。
○「走れ走れ運動」など、本校の伝統として大切にしていく。更に各学年の体験活動などは、コロナ禍で実施していなかった活動等も含めて、活動を検討していくとともに引継ぎを確実に進行。
○地域コミュニティ連絡協議会の設立に向けた動きとともに連動しながら、大人総がかりで子供を育てていく取組を推進する。
○不登校対策も含めて、リモート授業の実施に取り組む。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。
<参考例> 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。